「名東図書館どくしょ会」　第６回　結果レポート

平成２６年 12 月 20 日（土）10：30－12：00　　名東図書館集会室

参加者　５名（一般）

進行　　１名（名東図書館）

テーマ本　『アルケミスト』　パウロ・コエーリョ/著

≪あらすじ≫

１６才の少年サンチャゴが、夢をおって、アンダルシアの平原からエジプトのピラミッドへ宝物をさがしに旅にでる。羊を売りお金をもってアフリカへ渡るサンチャゴは、さまざまな体験をへて、錬金術師と旅をともにし、ついに宝物をみつける。

ファンタジーの要素、スピリチュアルな前兆・導き、砂漠や風の自然の力の描写のなかに、人生訓ともよべる言葉がちりばめられている。

司：では、お一人ずつ、お名前とちょっとした感想、デーマ本を５点満点で点数づけして述べてください。

山：童話？、子どもむけ？、子どもなら面白いとおもうかなあ、大人が理屈で考えるとおもしろいかどうか？　子どもなら　５点。大人なら３点だな。

か：楽しく読めた。時期的にクリスマスプレゼントのような本です。村上春樹の“１９８４”やコミックの“ワンピース”に通じるものがある。もとめるものが、同じだナアと。童話、ファンタジーのようだが、聖書もファンタジーみたいなものだから・・・神話と現代のハザマにあるような本と思います。５点。

伊：本に値しない。あらすじだけ。レジメをよんでいるよう。セリフも奥行きがない。２点。

い：サッと読めた。なんだこれ？これが、ベストセラー？と思った。旅のゾクゾク感やワクワク感がない。ちりばめられた言葉が哲学的にみえて、意味がないような。目標をもって生きることが大事だよなあーって、これが言いたいことだと思う。２点

真：読書好きでないひとでも読むから、ベストセラーになるんです。おもしろくはない。言葉が直接的。訳がうまくない。説明っぽい。骨格がしっかりしているのに、しっかりかけば、壮大な話になると思う。羊飼いの生活が想像できないし・・・テーマはわかるが直接的すぎる。ただ、最後まで一気に読める。人物が描かれていない。テーマは描かれている。感情移入できないなあ。３点。

伊：原文はポルトガル語で、英語から訳しているから、ぬけているところもあるのではないか。

イ：予兆や前兆にしたがっていけ、というところに自分にはいままでなかった生き方がみえた。すごく深いところで、すごい本だと思った。スピリチュアルな本だなあと、そういう世界にふれることができた。今まで、自分はまったく関心のない世界だが、こういう生き方もあるのかと。児童文学ではないですね。まあ、ティーンズ向けか。４点。

司：きびしい評価もありますねえ（笑）では、ざっくばらんに、

○：私は児童文学をよく読むので、児童文学としてよんだ。児童文学は着地点がきちんと用意されているので、この本もきちんと始末がかいてあるので、そうかなあと。

○：哲学的で、新興宗教みたいな感じ。キリスト教、イスラム教、ユダヤ教とかいろいろな宗教のいいとこをとってつなげたみたいな・・・

○：哲学的という言葉は、ちょっと難しいのであてはまるかどうかわかりませんが、何かくるりとまわって元に戻ったとういうか、最初の場面のイチジクの木に戻ったというのが、とても印象的でした。

○：だから“ワンピース”っぽい。宝物は足元にあるというテーマですね。

○：最初に戻るという設定は、よくありますね。

○：砂漠の女性にであって、すぐにビビッときて行動することはすごいと思った。ここのところは感動した。本能にまかせた行動力です。ぜひ、若い人にもよんでもらいたいなあ。

○：２番目の女の人ですよね。２番目と仲良くなる。最初の商人の娘はどうなったのかな？

○：というか、サンチャゴが砂漠をとりこんだり、いろいろ経験を経て大きくなったところで、ファティマという砂漠の女性にであった。だから、行動できた。商人の娘のときは期は熟していなかったので結ばれることもなかったということだと思う。

○：ひとつひとつの言葉や出来事に意味があって、深読みができる。示唆に富んでいますね。

○：何かあるだろうと思って読んだ。ブラジル人のカトリック信仰がバックにあると思う。外国ではオカルトが学部の授業にあるときいたことがある。オカルトを科学するという考えは日本にないですね。だから、日本人にはちょっと理解がむつかしい本だと思う。

○：日本人は、あえていえばクリスタル商人的ですよね。地道に着実に生きていくというのが、ぴったりです。冒険はしないし・・・。

○：イギリス人は、まぬけっぽく描かれてます。いかにもイギリス人みたい。勉強ばっかりして、本ばっかり読んで、それで満足しているというか。

○：少年の名前のサンチャゴは、巡礼の最終地点ですよね。ピレネー山脈をこえてたどりつくという。何かを象徴しているのかな。ファティマという言葉も予言かなにかにでてきますよね。そういう名前をわざわざ使っているのは、意図があるんでしょうね。

○：知識がある人が読んだら、ああ、あのことか、とか、これはこういうことだ、とか、いっぱいわかることがあるのでしょう。エメラルドダブレットもなんのことだか・・・

○：（ipad を操作して）おお、でてきた（笑）ピラミットにあったらしいです。錬金術の基本とか不老不死のなにかが、かいてあるとかないとか・・・（笑）

○：セイラムの王の“セイラム”も、アメリカでの魔女裁判があった地名ですよね。そういうことが、全部わかって読むと、深読みができておもしろいでしょうね。

○：「マクトューブ」って、なんでしょうね、何を意味してるんでしょ？

○：ダビンチコードみたいな、謎解きのおもしろみがありますね。

○：そこまで調べて読む気にはならなかったです。（笑）

○：宗教のベースがあるから、そのベースのある人はすんなりよめるのかなあ。

○：１回目に読んだときは面白くなかった。２回目は今朝ですが、気になる言葉がひとつひとつおもしろくて、フセンをつけました（笑）。教訓的なことを誰かにつたえたかったのだろうなあ、言いたいことがたくさんあることはわかる。ただ、それが、自分で考えたことなのか、どこかから引っ張ってきたことなのかが、わからない。

○：確かに、線をひいて読みたいところがたくさんあった。

○：それが、自分で体得したことなのか、だれかの言葉なのかがわからない。子どもにつたえたかったのだろうか。

○：太陽としゃべったり、風と話したりして、ここのところは、子どもにうけるだろうな。

○：アニメにするといい場面だと思う。子どもに受けるし、場面が生きる。

○：子どもに受けるとか、そういうことは作者は考えていないと思う。壮大な自然や宇宙との対話のなかから、じぶんの方向を見出すという、自分の心に問うということ。すごく、スピリチュアな要素があって、そういう世界を私は関心をもたずに切り捨てて生きてきたから、とても興味深い。

○：この作者は、ジャーナリストだったから、読者にうけるということは考えていたと思う。

○：こういう世界もあるよと示して、こうしなさいと勧めている。

○：ちょっと、違う。勧めているのではなくて、現代人の目の曇りを除いてくれるというか、ちがう方向を示してくれるというか。

○：旅をするときに直観に頼っていくと、いいことがあるということをいっているのかな。

○：前兆というか、タカが攻撃しているのを見て、部族が襲ってくることを知るとか、そういうことを信じてもいいよ、信じる人はいっぱいいるよということ。おみくじや、星占いを信じている人がいっぱいいる、そういうことで、世界が動くことがあるんだということですね。自分には知らない世界だった。

○：スピリチュアルといっても、最後は自分の心できめなさい、自分の心を読みなさいということだと思う。

○：そのきっかけですよね。それが、前兆とか予兆・・・。タカが飛んだり、風がふいたり、それに気づいて生きていけということだと思う。

○：そんなふうに生きてきたら、今のあなたはないですよ（笑）。

○：小牧市や南区には“易”で有名なところがあって、とても流行っている。そういう地盤があるんですね。信じることの深い浅いはあっても、みんな気にしている。

○：タイトルの“アルケミスト”は錬金術師ということだけど、何を意味しているのでしょうか。どうしてこういうタイトルにしたのかな。錬金術師は、大切なことを知った人、いろんなことができる人という意味で、そういうものに、サンチャゴ少年がなったということかな。

○：私は、旅の後半でみちびいていくまさに錬金術師のことをいっていると思う。最後はその人の誘導というか、それで、宝物をみつけるということで、その錬金術師だと思った。

○：錬金術師は弟子をみつけたんですよね。それが、サンチャゴ少年だった。

○：でも、サンチャゴ少年は錬金術師になったという記述はないですよね。

○：いろんなことができる、神につながる人ということで錬金術師。イメージとしてのタイトルかな。

○：私は、錬金術師は胡散臭いというイメージしかないけど・・・（笑）。

○：アルケミストは化学の語源のケミストリーですよね。化学は錬金術師から派生したということで、アルは定冠詞だったかな。まじめな学問として発達したとおもう。

○：娘が化学を専攻していて、化学はファンタジーだ、夢がいるといっていた。私は、地道な研究の積み重ねが学問だとおもっていたので、ちょっと驚き。じゃあ、お母さんの本好きの血が、化学するには、大事だねっていっておいた。

○：そうだと思う。化学は想像力がいる。スタップ細胞もまさに想像力。（笑）

司：まとめにはいりましょう。一番印象にのこったことはなんでしかた？

○：成長物語ということですね。ハードルがたくさんあって、それを超えて大きくなった。若い人に読んでほしい。ただ、会話が成立していない。問いと答えがマッチしていない印象です。読みづらい。

○：「おまえに砂漠と風のことばを教えたのは誰だ」「私の心です」なんて会話は、すらっと読めないですね。（笑）つっかえる。ひねりすぎ。

○：爽快な冒険旅行。さわやかな気分になりました。キリストがこういう風にキリストになりましたみたいな、そんな体験を味わった感じです。インディ・ジョーンズみたいな・・・。

○：今、パラパラ見ると、なかなかいい言葉がかいてあるなと思った（笑）。

○：２回読むと、胸にぐっとくる言葉がある。いろんな神がでてきて、小癪なとも思うが。サンチャゴ少年は、学があって、やっぱ、選ばれた人だなあと。羊飼いは旅をしたいからやっていたのであって、本当は神学を勉強していた。賢い少年というイメージ。

○：サンチャゴ少年はリアリティがないなあ。正反対なのが、クリスタル商人。一番人間臭い。リアルで、人間として納得できる。ファンタジーは苦手なので、この人が面白かった。

○：クリスタルのコップでお茶を飲むというとき、そのコップはどんなかなと想像した。水晶をくりぬいたのかな、グラスに足はあったのかな、とか、キラキラしてたのかなとか・・・。

○：やっぱり、クリスタルガラスでしょう。足はなくて、タンブラー形で。くりぬいた石みたいなものではないと思う。

○：ラストの方はたたみかけるように話が進みますね。それが、印象的。最初は、クリスタル商人の場面とか、ながいですよね。おもわせぶりで、伸ばして伸ばして、ひっぱってひっぱって、どう決着がつくのかなあと読み進めると、パッパッと展開して元に戻って終わる。文学作品としてうまいなあと思った。

○：私は、途中でラストは想像できた、もとにもどるんだなと。

○："ワンピース" は完結していないけど、おんなじです。もとにもどってくる。

○：サンチャゴ少年の将来が知りたいですね。

読みづらい、たいした本じゃない、どうしてベストセラー？という感想の人も、最後にはもう一度読んでみようかな、との感想でした。
宗教がかっていて、ファンタジーっぽくて、リアリティがなくて・・・とまあ、ちょっと不思議な本でしたが、皆の考えを聞くと、ちがった側面からみることができて、それが、読書会の醍醐味だと、結論がでました。

次回　　２７年２月２１日（土）　午前１０時３０分～１２時

テーマ本　樋口一葉/作　『十三夜』
　　永井荷風/作　『墨東奇譚』
（短編なので２冊にしました）